がっこう動物新聞

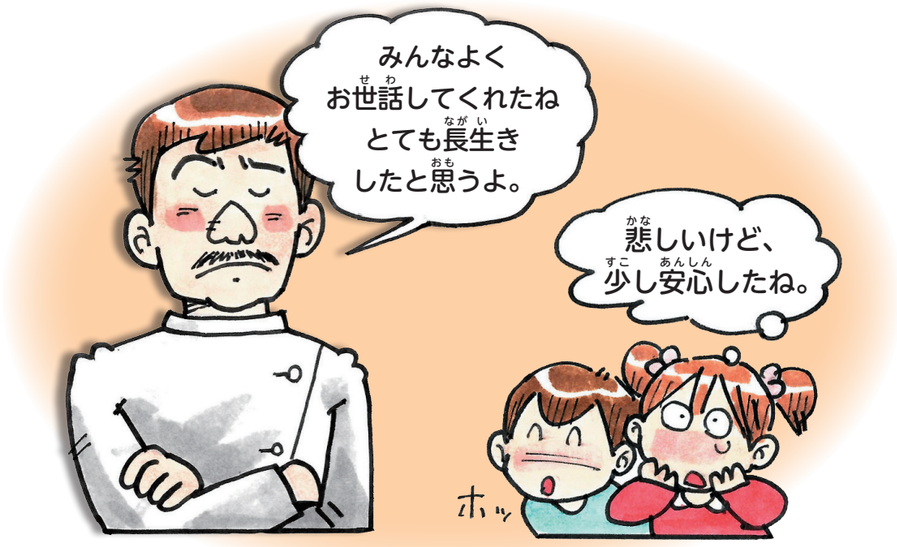
2017年 第5号（通算第14号）
共同発行
一般社団法人 日本小動物獣医師会
公益社団法人 日本獣医師会

みんなでお世話をしてきたのに！ ウサギが死んじゃった!! ……どうしよう？

かわいがっている動物が死んでしまうのは、とても悲しいよね……でもこれは、生き物を飼育していると、どうしても避けて通れないことなんだ。今回は、飼育している動物が死んでしまった時にどうすればいいか？という問題を取り上げるよ。

1 死んでしまった原因を教えてもらおう

いつも診てもらっている獣医師さんに、死んだウサギの病気のことを聞いてみよう。
獣医師さんは、科学的に説明してくれるよ。



2 作文を書こう

死んでしまったウサギのお世話をすることが、どれほど楽しかったか。その可愛かったウサギが死んでしまうことが、どれほど悲しいことなのか。

そんなことを文章にして、みんなで悲しさやさびしさを話し合えば気持ちが軽くなるかもしれないよ。

話し合ったことや作文をお父さんやお母さんにも見せて、家族でも話し合ってみよう。

福岡県うきは市立大石小学校の児童の作文

「ゴンの人生」

江藤 崇太

ぼくたちは、4年生のころゴンとビックというなまえのうさぎをかっていた。その中でもビックとチョコはすごくケンカをしていた。でも一番強かったのはゴンだ。ビックとチョコはぼくたちがしそだてする前にどんどんだからぼくたちがしそだてしたのはゴンだけだった。ゴンは友達がいない分さびしそうだった。だから、やさしくせわをしてあげた。その夜はゴンをさびしがっただろうなーと思った。ぼくは動物を育てる大切さをしれた。だから当時3年生だったぼくたちにも動物を育てる大切さをしってほしいと思い、先生にうさぎをもらってきてほしいとおねがいした。

6年 江藤 崇太くん

出利葉 妃星

今から二年前、わたしが四年生のとき、大切に育てていたうさぎのゴンが死んでしまった。

ゴンが死んでしまった時、わたしはすごく悲しかった。水をあげたり、うさぎ小屋のそうじをしたり、子しゅう、ごはんをあげたりいっしょうけん命、世話をしたのでとても悲しかった。夏、白でふわふわしていてわたしはゴンが大好きだった。

だから、下級生にもうさぎの世話をしてほしかったので、四年生全員で先生に「うさぎをもらってきてほしい」とお願いしに行きました。今は、新しいうさぎが2ひき、ジョコとパロがいて、妹たちがたくさんお世話をしています。

わたしはお願いしに行って本当によかったと思ってます。

6年 出利葉 妃星さん

3 お墓を作ってあげよう

獣医師さんの指導のもと、校庭にお墓を作ろう。

学校によってはお墓を作れないばあいもあるので、動物霊園で火葬してもらうこともできるから、その灰を学校に作ったお墓に入れられれば、ウサギもみんなも、さびしくないはずだ。

4 さて、これが一番大事

もう二度とウサギは飼いたくない！……って思うかもしれない。
でもね、何もいなくなった飼育小屋を見たら、もっともっと悲しくなるんじゃないか？
次に飼育したい下級生の子供たちだっているんだ。だから、獣医師さんから聞いた説明や、みんなで話し合ったこと、とても悲しかったこと……それもぜんぶ、次に飼育をする子供たちに伝えよう。
いきものはいつか死んでしまうこと、でも必ず次の命にバトンタッチされること……それをみんなが知って次に伝えていくことこそ死んでしまったウサギが一番望んでいることだと思うんだ。

先生や保護者の方へ

いきものを飼育する上で、どうしても避けられないことは「死んでしまう」ということです。
先生方の中には「死んでしまうと子供が悲しむので飼いたくない」と言われる方も少なくありません。
でも「命」はゲームのようにリセットすれば生き返るというものではない、ということも学ぶために、学校飼育動物がいるのです。
……子供たちとともに悲しんでください。家庭でも、ペットの飼育が少なくなっている現在、子供たちに命のぬくもりを伝え、それはいつか消えてしまうこと、かけがえのないものであることを伝えたいと思います。

獣医師会は、学校の動物飼育を応援しています。
学校で飼育している動物のことならどんなことでも近くの獣医師会にご相談ください。

●構成・イラスト：熊谷さとし　●レイアウト・印刷：ニシ工芸株式会社